

「差が有るのは、能治の不平に非ず。

不一は、還つてこれ所化の機の別なればなり。」

弘法大師『付法伝』

佛さまの教えは、人の数に依つてその姿を変え、人生の期に依つて選択されて行きます。これは、その時々にながら心が移ろうからです。

また、その苦悩の大体は、取りこぼしや、墓穴を掘ることによって来ます。決して難しい事ではありません。

出来ることには手を出さず、サボったり、油断したり、軽んじて取り逃がしています。

その反対に、出来もしない事や、難しい事には、ただただ憧れますが到底届きもしません。

為したいことは、為せることの積み重ねです。出来ないことも、出来ることの積み重ねで、出来るようになります。些細な事も馬鹿にせず、何事も愛おしく大切に扱います。さてさて。

このお話も、簡単に幼稚に思うかも知れませんが、上手くいかない時には、大方、この手の考えが消え、大向こうを狙つて苦しんでいる事が多い様です。

平成二十七年如月

南山 沙門 修詮記